

# OneNote Class Notebook を利用した eポートフォリオの試み

## Attempt to use OneNote Class Notebook as an e-Portfolio

梶木 克則

Yoshinori KAJIKI

甲子園大学 栄養学部

College of Nutrition, Koshien University

Email: kajiki@koshien.ac.jp

**あらまし**：これまで Moodle の機能を利用した eポートフォリオシステムにより利用者の成果の蓄積と教師からの評価結果の提示などを行ってきたが、操作が煩雑なことで画面の構成に制約が多いことで使いにくいという意見が寄せられていた。OneNote の使い易さとクラスノートブックによる管理のし易さにより、大いに改善された。

**キーワード**：OneNote, Class Notebook, e-Portfolio, Moodle

### 1. はじめに

eポートフォリオ(ePF)の構築と運用は、平成 21 年度に採択された文部科学省学生支援推進プログラムの活動 (Good Practice:GP) の一部として始まり、GP に関連した 1 年生向けのキャリア教育科目として開講されていた「教養演習 I」の 2 つの「振り返り」を ePF に蓄積する形でスタートした。平成 22 年度は、システムの構築に充てられ、平成 23 年から ePF の本格運用を開始した。GP のテーマとして本学から提案された「キャンパス・キャリア・ファイル (CCF) による段階的就職支援の構築」の活動の一部として、教養演習 I で使うワークブックを CCF と位置付け、CCF に記入された内容を ePF にも蓄積する形でスタートした。

毎回蓄積する内容としては、その回のまとめとしての「今日の振り返り」と、その日までの 1 週間で頑張った経験 2 つまでを「1 週間の振り返り」として蓄積した。最初、ePF へは、文字入力可能なテキストボックス形式の PDF フォームを利用して、ワークブックとほぼ同じレイアウトの PDF ファイルを用意した。これら 2 つのファイルを Moodle の画面を通じて毎回アップロードとダウンロードされた。

その際の問題点として、PDF フォームへの入力が入りにくいトラブルや、2 つの PDF ファイルの提出先を間違えたり、毎週の提出頻度は多すぎたことである。提出の頻度はその後大幅に減らされていた。

次の年、PDF ファイルを介さず、ePF の編集画面に表の枠をコピーし、入力する方法に変更された。提出の頻度も 2 回だけに減らされた。その代わりに CCF を提出してもらって、教員が記述内容をチェックし、評点とコメントを学生にフィードバックするようにした。こうした学生からの入力と教員からの評価結果の提示を Moodle のオンラインテキストの機能を使って行った。

オンラインテキストを使って、Moodle 上に情報を蓄積することで ePF として役立てることができると、

入力枠をコピーして編集画面に貼り付けてから入力するスタイルは煩雑であり、枠が崩れることも多い。そこで学生側の入力枠を罫線の枠から文字罫線を使ったテキストベースの物に変更した。見た目は悪くなるが扱いはしやすくなった。

より CCF の紙面上のレイアウトに近く、見た目に入力しやすい ePF を目指していた時、OneNote Online の事を知り、更にそれに Class Notebook というアドインを付加することで教員から管理できることが分かり、ePF として使えるのではないかと試みた。本稿では、従来 Moodle 上で行ってきた学生が入力する情報の蓄積と、教員が行う CCF の記述内容を評価して評点とコメントを学生側に提示することを OneNote 上で実践してみた結果について報告する。

### 2. ePF への蓄積の内容と方法

蓄積内容とその方法について、経緯を説明する。

#### 2.1 2 つの振り返りを ePF に蓄積

半期 15 回、各回の終わりに「今日の振り返り」と、頑張った経験 2 つまでを「1 週間の振り返り」として記入し、ePF にも蓄積する。図 1 に「1 週間の振り返り」入力済の PDF ファイルを示す。

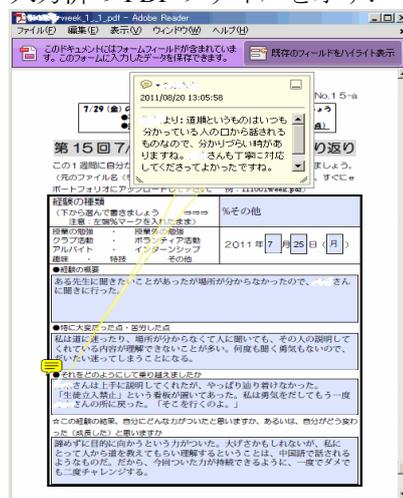


図 1 1 週間の振り返り入力済の画面例

その上に見えているコメントは、教員からのフィードバックである。

## 2.2 自己PR文と短期・長期目標を2度蓄積する

翌年にはePFへの蓄積回数が大幅に減らされ第2回と第14回の自己PR文と短期・長期目標だけをePFに蓄積することとした。図2は自己PRを入力する場合の説明と編集画面である。説明文の下の入力のための枠をコピーして、下の編集画面内に貼り付けてから、入力する方法を取った。学生側からは、編集画面が見える形になる。空の枠を上端に追加挿入することで、次々に挿入することが可能である。

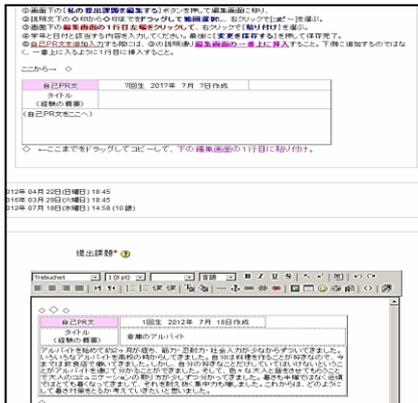


図2 ePFの自己PRの入力ページ

## 2.3 教員側からの評点とコメントのフィードバック

CCFを4回程度回収し、3つの項目について各3点満点で評点を付け、コメントと共に学生側にフィードバックを行った。その画面例を図3に示す。



図3 CCFの評点・コメントの表示例

## 2.4 入力枠を文字罫線に変更

図2の説明文の下の罫線枠をコピーして編集画面に貼り付けて使う操作は煩雑とのことで、文字罫線の枠をコピーして使うよう改良した。見た目は悪いが、扱いは楽になった。

## 3. OneNote Online への移行

Moodle という e ラーニングシステムを使って、ePF を行ってきたが、以前から入力の手順が煩雑であるなどの意見があった。入力手順が簡単で見た目

に分かりやすい方式を探していたが、OneNote Online に Class Notebook という機能を追加することで、入力枠を簡単に全員に配布でき、全員の入力内容を素早く閲覧できることが分かった。

OneNote Online の画面上には、ワークブックのページに似た図4のような見出しと枠が表示され、その枠内に入力することができる。

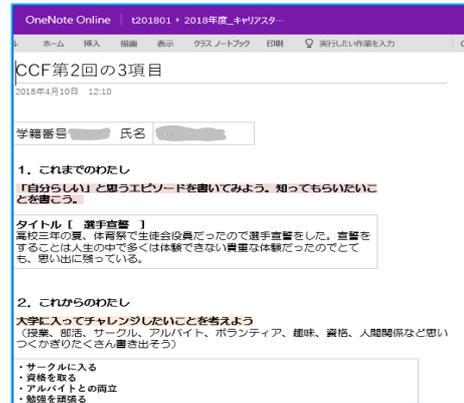


図4 OneNote Online 上のページの例

学生向けの評価結果とコメントを入力するページは、図5のようなレイアウトで4回分の評価と各下に感想を入力してもらった欄を設けた。図3と比較して、非常にシンプルにまとめることができた。



図5 評価と感想を入力するページの例

## 4. まとめ

OneNote Online に移行し、入力画面がこれまでよりもワークブックに近いイメージで分かりやすく、無理なく入力できることから、成果物の蓄積という点では非常に良いといえる。

Class Notebook の機能により、教員側から説明や枠をレイアウトしたページを全員に簡単に配布することや、各学生の画面を順に閲覧することができ、コメントを簡単に入力することができる。

### 参考文献

- (1) 梶木克則, 西川真理子, 増田将伸, 前馬優策, 初年次キャリア教育科目と連動させたeポートフォリオの3年目の運用, 平成25年度教育改革ICT戦略大会, D-7, 2013